

『おらだの診療所、おらだを守る!の精神を』

ほ

っとクリニック vol.101

町立金山診療所 ☎52-2915



副所長(兼)外科医長
瀬尾 恭一 医師

この度、町立金山診療所の副所長兼外科医長を拝命着任いたしました瀬尾恭一と申します。出身は鶴岡市です。専門は脳神経外科ですが、今まで白鷹町立病院外科や朝日町立病院内科医長として勤務してきた経験があります。また専門の脳神経外科では、大学病院で勤めていた時代には附属のこども医療センターで勤務していましたが、小児から大人まで内科・外科問わず診療してきた経緯があります。専門の脳神経外科以外の事についてもまずはご相談ください。

さて、当診療所は町営の診療所が初めて開設された昭和22年から70年という節目の年の様です。それまでの間、町立病院となったり病床の増減があったり、標榜科の変更があったり、有床診療所となったり様々な変遷がありました。

金山町だけでなく、日本全国少子高齢化はどんどん進み、地方では過疎化が深刻な問題となっており、医療の観点から言えば、医療技術は日進月歩で医療の常識は日々更新され、昨日まで常識であったことが非常識になるなどまだまだ進歩はめざましいです。そんな社会の中にあれば当然自治体病院・診療所の役割は自ずと年月と共に変わっていきます。

その変化に対応するのは我々医療人の当然の責務ではありませんが、地域住民の理解が必須となります。自治体病院の現状は昨今非常に厳しいものがあります。どの自治体病院も維持することに必至です。医業を運営するにも莫大なお金がかかり、そのお金が賄えなくなったり、当然病院はつぶれます。自治体病院ではあまりありませんが、規模の縮小などを余儀なくされます。つまり対応できる疾患・症状に限りが出てきます。つぶれた時に一番困るのはその地域に住む住民です。

今までも病院存続の問題についてはこの「ほっとクリニック」で度々話題になったと思いますが、



町立診療所がどうあるべきかどうあって欲しいか、この時代にある今こそ地域住民が真剣に考え、その意見を声に出して欲しいと思います。

我々は、「無くてはならない診療所」であるべく努力を続け、より地域に合った住民に望まれる診療所の在り方を模索していき、地域住民の皆様へ寄り添った医療を提供できるよう取り組んで参ります。

ほっとクリニック101回目から壮大なテーマとなっております。疾患等の具体的な健康問題については次の機会にまた書かせていただきたいと思います。